

Moodle を利用した授業支援

山 内 真 理

1. はじめに

Moodle は、授業・学習支援のための独自の機能を備えた、学習管理システム (LMS) である。オープンソースのソフトウェアであり、世界中で利用され、開発者ユーザーによる改良やカスタマイズも進められている。近年、日本でも LMS の利用が徐々に広まってきており、白井 (2014) の調査^{1, 2}によれば、2013 年時点で確認された 843 の高等教育機関の約 56% (国立大学に限れば約 90%) が何らかの LMS を利用している。そのうち最も多く使われている LMS が Moodle であり、国立大学の 71.3%、公立大学の 34.9%、私立大学の 31.9%、高等専門学校の 41.9% が、全学または学部・学科・研究室単位などで Moodle を利用している (表 1)¹。

ただし、広まってきているとは言え、日本の大学で何らかの LMS が導入されている比率は、英国や米国 (それぞれ、2010 年時点で 100%, 93%)³ に比べるとかなり低い。LMS 自体の認知度も高いとは言えず、自習システムとしての「e ラーニング」と LMS は別物であるという点が認識されていないこともある。

筆者は 2006 年より Moodle を利用しているが^{4, 7}、以前のバージョンは多機能である分操作手順も多く、コンピューターが使える学習環境 (教室・自宅) が必要だったことなどから、導入は特定の授業に限られていた。しかし、Moodle 2.x での大幅なバージョンアップを経て UI が格段に向上し、また、スマートフォンが急速に普及したこともあって学習環境が導入の壁ではなくなってきたことから、2014 年度後期より Moodle 利用を筆者の担当する全クラスに広げた。また、本稿執筆時点でフィードバックが得られた範囲では、授業での Moodle 利用についての受講生の受け止め方も、「その日やることがわかるので使いやすかった」「自宅や電車の中で学習でき、とても便利でした」「宿題提出など、無駄に紙を使わず、簡単にできたのでよかった」など、おおむね良好である。そこで、本稿では、2014 年度

表 1 Moodle を利用していると思われる大学等の数と比率¹

学校種別	学校数	全学利用	全学利用・ 個別利用の合計	他の LMS を利用	LMS 未使用
国立大学	87	35 (40.2%)	62 (71.3%)	7 (8%)	10 (11.5%)
公立大学	83	13 (15.7%)	29 (34.9%)	6 (7.2%)	35 (42.2%)
私立大学	611	105 (17.2%)	195 (31.9%)	73 (11.9%)	301 (49.3%)
高 専	62	17 (27.4%)	26 (41.9%)	11 (17.7%)	24 (38.7%)
総 数	843	173 (20.5%)	312 (37.0%)	97 (11.5%)	370 (43.9%)

後期の活用事例をとりあげ、バージョンアップ後の Moodle により、どのような学習活動や学習支援が行えるか、またどのように教員の作業が効率化しうるかを見ていく。

2. Moodle サイトの概要

Moodle の活用事例を見る前に、教員として授業用コースを用意する立場から、Moodle サイトの概要を示しておく。

2.1. トップページ

Moodle サイトは、トップページに掲載されるコースから使用コースを選ぶ形になっている。コースの掲載はリスト表示がデフォルトである。単独の授業コースだけを管理する教員にはトップページを変更する権限はないが、自分の担当授業のために個人で Moodle サイトを用意する場合はトップページもカスタマイズできる。筆者の運用する Moodle サイト⁸では、2014 年度後期に学生の私物端末の利用を開始したこともあり、スマートフォンでの見やすさにも考慮して表形式でコースを表示している (図 1, 2)。



Yamauchi Lab

CALENDAR
January 2015

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

NAVIGATION

- Home
 - My home
 - Site pages
 - My profile
 - My courses

山内担当の授業用サイトです。予習復習に活用してください。

	Tue 火	Wed 水	Thu 木	Fri 金
2			▶英語2	▶研究基礎
3	▶音声学特講	▶研究II 3年ゼミ	▶卒業研究 4年ゼミ	▶研究I 2年ゼミ ▶CCG 2014
4	▶英語1			

◆以前のコース：授業 | 交流

Search courses: Go



Yamauchi Lab

山内担当の授業用サイトです。予習復習に活用してください。

	Tue 火	Wed 水	Thu 木	Fri 金
2			▶英語2	▶研究基礎
3	▶音声学特講	▶研究II 3年ゼミ	▶卒業研究 4年ゼミ	▶研究I 2年ゼミ ▶CCG 2014
4	▶英語1			

◆以前のコース：授業 | 交流

コースの検索:

図1 筆者の担当授業用の Moodle サイト：PC 表示

図2 同左：iOS 表示

2.2. コースページ

コースページには、コース内におかれた資料や教材が配置される。1 ページをトピックごとに、あるいは図3のように週単位でセクションを分けるフォーマットが一般的であるが、Moodle の仕様上、「活動」(小テストなど) や「リソース」(参照するウェブページなど) は縦一列に配置するしかない。1 学期分の「活動」や「リソース」が多いと、かなり長いリストになってしまい使い勝手が悪くなることから、これを避けるべく様々な工夫がなされている

筆者の場合、2014年度は、授業内容提示用の「フォーラム」を最上部に置き、この「フォーラム」で、教材やミニ課題のリンクを提示した（図4①）。その下に総復習用にひとまとめた教材を置き（図4②）、個々の授業で利用する教材は、新しい物が上に来るように使用順に配置していくことにした（図4③）。使用日が来るまで「非表示」にしておくことで、その日の授業で使う教材が常に③のトップに来ることになり、また初期の授業で利用した教材にも、下までスクロールせずに①の「フォーラム」から飛ぶことができる。まだ改善の余地はあるが、手間をかけずに、スマートフォンでも見やすいページを表示できる方法ではある。



図3 週別セクション（英語，2013年度）

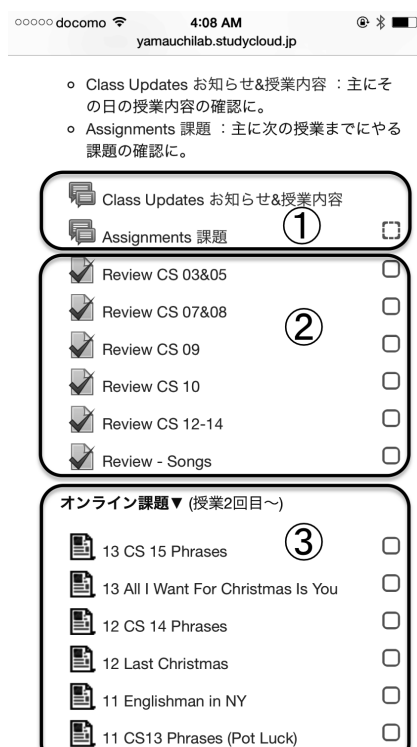


図4 頻度別セクション（英語，2014年度）

2.3. 活動・リソースの追加

Moodleでは、学習者が閲覧するだけの素材を「リソース」、学習者が何らかの入力を行うものを「活動」と呼ぶ。いずれも「活動またはリソースを追加する」ボタンでコースに追加できる（図5，6）。「活動」には、「チャット」、「フィードバック」、「フォーラム」、「小テスト」、「課題」などがあり（図5および図6上部）、「リソース」には、ウェブサイトのURL、アップロードしたファイル、Moodle コース内に作成されるページなどが含まれる（図6下部）。

「活動」モジュールは、コースに追加したあと種々の設定が必要になるが、設定の複雑さはそれぞれの「活動」で大きく異なる。以下で取り上げる「フォーラム」は「活動」の中で

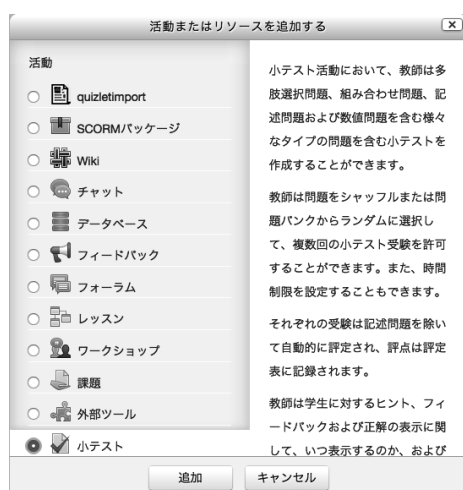


図5 「活動またはリソースを追加する」メニュー前半

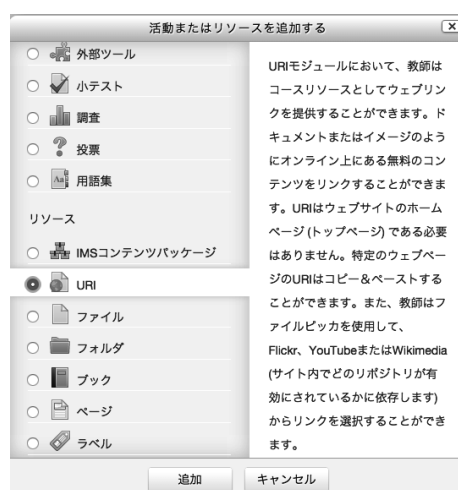


図6 同左メニュー後半

も設置が容易なモジュールであり、授業中に「フォーラム」を設置してその場で使い始めることもできる。逆に、本稿では立ち入らない「ワークショップ」など、活動設計に応じた複雑な設定が必要になるモジュールもある。以下では、「フォーラム」、「課題」、「フィードバック」、「小テスト」といった、比較的容易に設置でき手軽に使える「活動」モジュールを中心に、学習活動や学習支援、また教員の作業の効率化の面で、Moodle がどのように役立つのかを見ていく。

3. 授業での活用事例

ここでは、まず「フォーラム」、「課題」、「フィードバック」、「小テスト」モジュールをとりあげ、筆者が担当授業でどのように使っているかを見た上で、Moodleを利用した他大学との交流・連携について論じる。

3.1. 「フォーラム」モジュールの多目的利用

図7は2014年度後期の「研究基礎」用のコースである。上で触れた英語のコース（図4）と同様に、学期を通してアクセスする「授業内容・課題指示」用の「フォーラム」と、学期後半にアクセスする課題提出用の「フォーラム」（企業研究）、学期末レポート提出用の「課題」モジュールを最上部に置いた（企業研究と学期末レポートは、最初は非表示に設定していた）。その下に、学期前半に利用するグループ研究関連の「活動」を配置し、図には入っていないが最下部にSPI関連の「活動」をまとめている。

「フォーラム」はディスカッションのためのモジュールであり、投稿に「返信」するか、「トピックを追加する」ボタンで新しい話題を始めることで活動に参加する。設置も容易で、①「活動またはリソースを追加する」メニューで「フォーラム」を選択して「追加」をクリックし（図5）、②「フォーラムの追加」画面でフォーラム名および説明を記入して保存するだけである。

設定はデフォルトのままでも十分使えるが、「評価」の項目で設定を変更することにより、投稿に評価を与えることも可能である。

また、グループ用のフォーラムを用意して(図7)、グループの話し合いのメモや分担作業(調査・スライド作成)の途中経過をメンバーと共有することもできる。投稿に添付した作業途中のファイルは、授業時以外にもダウンロードして作業の続きを行うことができるため、オンラインストレージ代わりにもなる。

英語の授業では、「課題」(3.3.を参照)にファイルを提出した後、同じファイルを「フォーラム」に投稿させ、クラスメートと共有し英語でコメントし合う活動につなげた。同じファイルを2箇所アップロードするだけであり、手間の面での問題もない。なお、今年度は実施しなかったが、フォーラム投稿は「評価」の設定を変更すれば、教員だけでなく学生同士での相互評価も可能にある。

ゼミの授業(研究I, II, 卒業研究)では、文書の作成・保存・共有にはGoogle Drive を用いており、教員からのコメントや相互コメントは直接Google Document に書き込むことが多い。しかし、Google Drive には評価機能がないため、補助的にMoodleを利用している。手順は、「フォーラム」や「課題」にGoogle Document のリンクを貼るだけである(Google Documentの方で共有設定をしておく必要がある)。こうすることで、作業に対する評価や、全般的なコメントやアドバイスなどをMoodleで管理することができる。



図7 「研究基礎」用コース

3.2.「フィードバック」モジュールによるアンケート調査

「フィードバック」モジュールを使うことで、簡単にオンラインアンケートが作成できる。回答者に結果を表示する設定が可能であり、研究基礎ではグループ発表の相互評価にこのモジュールを用いた(図7)。回答者は質問に答える形で評価を行い、評価項目ごとの平均点や自由記述の一覧を含めたアンケート結果を全員が確認できる(図8)。

3.3.「課題」モジュールによる評価の効率化

「課題」モジュールは、強力な評価機能が大きな特長である。図9のような提出課題一覧で、提出の状態(期限内の提出は緑、遅れた場合は薄赤で表示)や評点、提出日などの必要な情報が一目で把握できる。このクラス(研究I)ではGoogle Documentを使用しているため、提出形式は「オンラインテキスト」としDocumentへのリンクを提出させているが、文書や音声、動画などのファイルも、もちろん提出可能である。ファイル提出の場合、提出物を一括ダウンロードすることもできる(図9左上)。また、この一覧上で評点やコメントを

0) 声の大きさ・速度・話し方は、どうでしたか？（原稿を読んでもしまった場合はマイナスですよ）

- とてもよい (5): 10 (58.82 %)
 - よい (4): 4 (23.53 %)
 - まあまあ (3): 3 (17.65 %)
 - あまりよくない (2): 0
 - 全くよくない (1): 0

平均: 4.41

0) スライドの見やすさ（文字の大きさ・視覚情報とのバランスなど）はどうでしたか？

- とてもよい (5): 11 (64.71 %)
 - よい (4): 3 (17.65 %)
 - まあまあ (3): 2 (11.76 %)
 - あまりよくない (2): 1 (5.88 %)
 - 全くよくない (1): 0

平均: 4.41

0) 説明の分かりやすさ、話のまとめ方はどうでしたか？

- とてもよい (5): 6 (35.29 %)
 - よい (4): 10 (58.82 %)
 - まあまあ (3): 1 (5.88 %)
 - あまりよくない (2): 0
 - 全くよくない (1): 0

平均: 4.29

0) 興味深かった（もっと知りたいと思った）所、特に良かったと思う所、こうすればもっとよくなると思った所など、できるだけ具体的に書いてください。

- メモを見ずに発表はきつかった。緊張しすぎて首元が予想以上に熱くなりました。
 - 海外のジブリ人気と日本のジブリ人気があんまり変わらなかったことに驚きました。
 声の大きさや説明の仕方がとてもよくすばらしかったと思います。
 - ジブリはスカートの動きで風を表現しているというのが興味深かった。

図8 「フィードバック」モジュール：グループ発表の相互評価（研究基礎）

2014年度 秋学期末レポート

評価操作

✓ 選択 ...

すべての提出をダウンロードする
 評価表を表示する

メールアドレス	状態	評価点	編集	最終更新日時 (提出)	提出コメント	オンラインテキスト
[アイコン] [名前]@gmail.com	評価のため提出	5	-	2014年 12月 19日 (金曜日) 13:33	コメント (0) コメントを追加する ... コメントを保存する キャンセル	https://docs.google.com
[アイコン] [名前]@cuc.ac.jp	評価のため提出	5	-	2014年 12月 19日 (金曜日) 13:51	コメント (0) コメントを追加する ... コメントを保存する キャンセル	https://docs.google.com
[アイコン] [名前]@cuc.ac.jp	評価のため提出	5	-	2014年 12月 19日 (金曜日) 13:34	コメント (0)	https://docs.google.com
[アイコン] [名前]@cuc.ac.jp	評価のため提出	5	-	2015年 01月 9日 (金曜日) 12:19	コメント (0)	https://docs.google.com

図9 「課題」モジュール：提出課題一覧（オンラインテキスト提出の場合）

直接入力することもできる。

評価作業をさらに助ける機能として、「評価ガイド」と、それに含まれる「よく使うコメント」がある（図10）。評価ガイド機能により、あらかじめ定義した評価項目と配点にそって点数を入力するだけで合計点が算出される。また「よく使うコメント」のリストを用意しておけば、評価時は、ワンクリックでリストからコメントを追加することができる（図

評点:
秋学期レポート評定用

三部構成		評点 4 /4
序論：背景＋話題設定		評点
本文中の出典	本文中で出典が明記されていませ ん。	評点 0 /4
必要に応じた図表利用		評点
内容の面白さ・その他		評点 8 /10
よく使うコメント		
＋本文中で出典が明記されていません。		
＋		
＋改行したら、次は必ず一字下げること。		
＋参考文献リストにオンライン記事載せる場合、URLだけではダメです。		
＋表やグラフには、図表番号とタイトルを忘れずに。		

図10 評定ガイドの利用：評価入力画面

10下部)。「課題」モジュールのこれらの機能は、フィードバックを効率よく提供する上で大きな助けとなる。

また、ここで示した評定ガイドは「研究基礎」の期末課題のために作成したものであるが、この評価項目は、学生にもレポート課題と同時に提示してあり、レポート課題のフィー

フィードバック

評点	秋学期レポート評定用
	三部構成 4 / 4
	序論：背景＋話題設定 2 / 4
	序論：本文の予告 3 / 4
	結論：本論を受けて、自分の意見を述べる 3 / 4
	根拠の適切さ 3 / 4
	巻末の参考文献リスト 4 / 4
	本文中の出典 本文中で出典が明記されていませ ん。 0 / 4
	必要に応じた図表利用 1 / 4
	適切な改行・字下げ 改行したら、次は必ず一字下げること。 1 / 4
	誤字・脱字がない 4 / 4
	内容の面白さ・その他 8 / 10
	33.00 / 50.00

図11 「課題」モジュール：学生が受け取るフィードバック

ドバックにも明記されるため(図 11), 学生にとってもレポート執筆のポイントが把握しやすくなると思われる。

「課題」モジュールのもう一つの特長は、多様な提出形式に対応していることである。ファイルをアップロードするだけでなく、指定箇所に直接書き込む「オンラインテキスト」の形も可能であり、後者は、授業を数分で振り返るミニ課題などにも利用できる。また、音声や動画を提出させる場合は、ファイルのアップロード以外にも、PoodLL⁹という Moodle 用の録音・録画のプラグインを利用して、ブラウザ上で録音・録画を行うこともできる(図12)。また PoodLL はスマートフォン対応も進んでおり(図13), これにより、筆者の担当する音声学の授業のように普通教室を利用している場合でも、発音課題などを無理なく導入できる。



図 12 「課題」での音声提出：コンピューター利用



図 13 同左：iOS 利用

3.4. 「小テスト」モジュールの活用

「小テスト」は、上で見た「フォーラム」「フィードバック」「課題」などのモジュールと比べると新規作成に手間と時間がかかるが、「問題バンク」(question bank) に問題が蓄積されれば、そこから適宜問題を選んで小テストを作成すれば済むようになる(図14)。

また「小テスト」は、理解度テストとして用いるだけでなく、1問ずつ解答・解説をチェックできる設定にすることで、解説付きの練習問題として利用することもできる(図15)。

問題形式についても、多肢選択型の問題(図15)だけでなく、クローズ型(図16: 解答は文字入力, 多肢選択などが可能)や組み合わせ型(図17)など、様々なタイプの問題が作成可能である。

さらに、「小テスト」の設定で解答回数や制限時間、正答・解説を表示するタイミングなどを変更することで、同じ問題を自習向けの教材にも、理解度確認のテストとしても使いまわすことができる。

研究基礎でSPI対策の時間をとる際は、こうした練習問題を利用して(2014年度は「CUCドリル」も併せて提示し、学生に選択させた)、学生同士で教えあったり、教員・サポーター・

小テストの編集: 基礎力チェック

⑦小テスト作成の基本的な考え方

合計評点: 1.00 | 問題: 1 | この小テストは公開されています。

最大評点: 10.00

保存

ページ 1

1 * bs pos found > Tom found the book very. 評点: 1 保存

多肢選択問題

問題を追加する ... ランダム問題を追加する ... ?

ここにページを追加する

問題バンクコンテンツ [非表示]

カテゴリ: G/Basics

基本の解説

カテゴリを選択してください:

G/Basics (114)

新しい問題を作成する ...

ページ: (前へ) 1 2 3 4 5 6 (次へ)

- 問題 ^
- bs pos additional (bonu * Q
 - bs pos beautiful 2 She * Q
 - bs pos chemical waste * Q
 - bs pos encourages O 2 * Q
 - bs pos excellent (perfor * Q
 - bs pos exceptionally tin * Q
 - bs pos financial (officer, * Q
 - bs pos found X useful 2 * Q

図 14 小テスト編集画面：問題バンクからの問題選択

パソコンを購入する時、頭金として総額の $\frac{1}{4}$ を支払い、残額を5回の均等分割で支払うことにした。分割払いの1回当たりの支払額は総額のどれだけにあたるか。ただし、利子とはからないものとする。

1つ選択してください:

- A. $\frac{3}{10}$
- B. $\frac{1}{10}$
- C. $\frac{4}{15}$
- D. $\frac{1}{15}$
- E. $\frac{9}{20}$
- F. $\frac{3}{20}$

チェック

⑧

$\frac{1}{4}$ 払った残りは全体の $\frac{3}{4}$

$\frac{3}{4}$ を5回分に分ける $\rightarrow \frac{3}{4} \times \frac{1}{5} = \frac{3}{20}$

図 15 解説付き練習問題：SPI非言語（研究基礎）

9:05 AM yamauchilab.studycloud.jp

空所を埋めなさい。(2), (3)は適語を選び, (1), (4)は単語を入力すること。
(ビデオチャット)

Britney: Robbie!

Robert: Hey Britney! Long time (1) no see!

Britney: Yeah, I know, how's everything (2) going in Japan?

Robert: Great! Jun is really nice and I'm (3) enjoying his university too.

Britney: Cool!

Robert: How's everything at home? How's Ayumi?

Britney: Good, she loves Mom's cooking and we had (4) fun (=enjoyed) shopping in the city the other day.

Next

QUIZ NAVIGATION

図 16 「小テスト」：クローズ型問題

9:02 AM yamauchilab.studycloud.jp

空所(1)~(4)を埋めるのに適切な語を選びなさい。*1つ余分な語句が含まれています。
(ビデオチャット)

Robert: Uh-huh, okay, too much information. Anyway, so you're having fun too, that's great.

Britney: Yes. Well, how about you? What have you been up to (1) far?

Robert: Watashi wa genki desu.

Britney: What?

Robert: Never mind. I've picked (2) some new Japanese expressions, and the (3) day I visited Jun's family's house. Everybody was so nice, but I felt so weird walking around (4) my socks.

(1) so

(2) up

(3) other

(4) in

Next

図 17 「小テスト」：組み合わせ型問題

学習状況は評定一覧で確認でき（図18）、全般的に理解度が低い項目を一斉指導で扱うといった対応も容易である。

テーブルデータをダウンロードする: CSVテキストファイル [ダウンロード](#)

姓 / 名		メールアドレス	状態	開始日時	受験完了	所要時間 点/50.00	Q. 1 /1.11	Q. 2 /1.11	Q. 3 /1.11	Q. 4 /1.11	Q. 5 /1.11
■	受験をレビューする	b■■■■@cuc.ac.jp	終了	2014年11月7日 11:23	2014年11月14日 00:38	6日13時間 37.41	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11
■	受験をレビューする	b■■■■@cuc.ac.jp	終了	2014年11月7日 11:27	2014年11月7日 12:05	38分22秒 33.70	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11	✓ 1.11
■	受験をレビューする	b■■■■@cuc.ac.jp	終了	2014年11月7日 11:26	2014年11月13日 22:46	6日11時間 18.52	✓ 0.74	✕ 0.00	✓ 1.11	✓ 1.11	✕ 0.00
■	受験をレビューする	b■■■■@cuc.ac.jp	進行中	2014年11月7日 09:39	-	-	✓ 0.74	✕ 0.00	✓ 0.74	-	-

3.5. 他大学との交流・連携

まず、研究Iの授業の一環として2012年度より行っている、中国とのオンライン異文化交流プロジェクト¹⁰⁻¹³に触れておく。

この交流活動では、Moodleの「活動」モジュールとしては「フォーラム」のみを利用し、授業時間内でのグループ研究の打ち合わせ、グループ発表（図20）、自由会話にはSkype¹⁴を用い、授業内外でのグループ研究の打ち合わせにはWeChat（LINEに似たコミュニケーションツール）¹⁵やPadlet（図19③: WALL）¹⁶を利用し、グループ研究の出発点となるアンケート

調査 (図19 ②) にはSurveyMonkey¹⁷を用いるなど、Moodle外のツールも多用した。Moodle利用としては、様々な活動の流れやアクセス場所を指示・管理する役割が主となった。

①9/16-10/17 知り合う 情報交換	<ul style="list-style-type: none"> グループ：自己紹介 全体：Photo Story Skype 	CUC：動画をここでMP4に変換すること
②10/24 プロジェクト 準備 情報交換	<ul style="list-style-type: none"> 異文化比較アンケート ソーシャルスキルアンケート WeChat準備 	異文化比較の結果を見て10/31までに、班のフォーラムにプロジェクトで調べたいことの案を投稿してください。
③10/31-11/28 グループプロ ジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 班内の話し合い(フォーラム) WALLで収集・共有 発表(発表形式を確認してください) Skype 	<ul style="list-style-type: none"> 1班用WALL 2班用WALL 3班用WALL 4班用WALL 5班用WALL
④12/5-12/12 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 発表のコメント 全体の振り返り→ Skype(他の班とも) 	交流活動の振り返り(アンケート)

①9/16-10/17 自己紹介	<input checked="" type="checkbox"/>
①9/16- 全体交流 Photo Story	<input checked="" type="checkbox"/>
10/24 異文化比較アンケート	<input checked="" type="checkbox"/>
アンケート結果	<input type="checkbox"/>
②10/24 ソーシャルスキル・アンケート	<input checked="" type="checkbox"/>
②10.24 ソーシャルスキル・アンケート(紙版)	
③10/31- グループプロジェクト：話し合い	<input type="checkbox"/>
③④12/5 発表とコメント	<input checked="" type="checkbox"/>

図19 交流用コース：筆者の運用する Moodle サイト内に設置



図20 Skype を利用した日中合同グループ発表

このプロジェクトでは、コミュニケーション実践が主目的であったため、コミュニケーションのしやすさを重視して Skype や WeChat を利用し、これにより自主的で活発なコミュニケーション活動への参加につながっている。ただし、外部ツールの場合、Moodle の「フォーラム」でのやりとりとは違い、教員が内容をモニタリングすることは難しいため、教員のコントロールがどの程度必要かについて事前に検討しておく必要はある。

次に、より高度な連携方法として、Mnet (Moodle Networking)¹⁸ という機能を用いて複数の Moodle サイトをつなぐやり方を紹介する。Mnet とは、複数の Moodle サイトをシングルサインオンで行き来できるようにする仕組みであり、これにより、異なる Moodle サイトのユーザーが、同一の活動モジュール (小テスト、フォーラム、データベース、ワークショップなど) を使って交流や協働学習に参加することができる。筆者は 2011 年度より Mnet 環境での学習活動に関する研究プロジェクト¹⁹⁻²¹ に携わっており、2014 年度後期の試行では、Mnet で共有されている活動を個々の Moodle コースに埋め込む形で提示し、サインオンなしで活動に参加できることが確認されている。今回の試行の重点は Mnet で共有された課題モジュールの動作確認であり、特に関与する複数の担当教員による共同評価作業と、Mnet 上での評価と個別 Moodle における評価の連動を検証していく予定である。これらが検証されれば、学生同士の交流活動だけでなく、教員間の共同作業の面でも活用の幅が広がると考えられる。

4. おわりに

本稿では、2014 年度後期の授業実践から Moodle モジュールの活用事例を中心に、Moodle を使うことでどのような学習活動、学習支援、授業支援 (教員の作業の効率化) が可能になるかを見てきた。ここでとりあげた「フォーラム」、「フィードバック」、「課題」、「小テスト」は、設定・設置が比較的容易なモジュールばかりであるが、なかでも幅広い用途に使える「フォーラム」や、強力な評価機能をもつ「課題」は、あらゆる授業で活用しうられると思われる。Moodle は多機能であり、様々なニーズに応えられるようそれぞれのオプションも多い分、一見、敷居が高いように感じられる。ここでとりあげたツールはそのごく一部であるが、そうしたごく少数の「活動」に、参考資料や既存の e ラーニング教材などの「リソース」を加えることで、かなりの学習支援・授業支援ツールになりうる。

Moodle のモバイル対応の向上をふまえた BYOD (Bring Your Own Device; 私物端末利用) 環境での授業実践や、Nnet 環境での「活動」や「リソース」の共有による大学間交流および協調学習については、稿を改めて報告したい。

参考文献・サイト

1. 白井達也 (2014)「高等教育機関における Moodle 利用状況のデータベース化の報告」鈴鹿工業高等専門学校紀要, 47, 1-4.
2. 「Moodle に関する広範な情報をオープンに公開するコース」<http://www.suzuka-ct.ac.jp/mech/moodle2/course/view.php?id=24> (閲覧: 2015.1.18)
3. 放送大学学園 (2011) 平成 21 年度・22 年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「ICT 活用教育の推進に関する調査研究」委託業務成果報告書 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1307264.htm (閲覧: 2015.1.18)
4. Rink, Lori & Yamauchi, Mari (2008) “Integrating Blended Learning into the Language Classroom” 神戸海星女子学院大学研究紀要 46, 195-211.
5. Yamauchi, Mari (2009) “The Impact of Blended Learning with Moodle on Teaching Practice” JACET Summer Seminar Committee (Ed.) Jacet Summer Seminar Proceedings No.8 Perspectives on Language Teacher Development, 43-47.
6. 山内真理 (2009)「大学英語教育における ICT 活用」神戸海星女子学院大学研究紀要 47, 93-119.
7. Yamauchi, Mari (2010) “Integrating Internet Technology into the EFL Classroom: A Case Study” International Journal of Pedagogies and Learning, 5 (2), 3-19.
8. Yamauchi Lab <http://yamauchilab.studycloud.jp/>
9. PoodLL <http://poodll.com/>
10. Yamauchi, M.& Jones, M. (2012) “Intercultural Telecollaborative Exchange between China and Japan” Proceedings of the 1st Moodle Research Conference (MRC2012), 180-181.<http://research.moodle.net/mod/data/view.php?id=1&rid=89&filter=1> (閲覧: 2015.1.18)
11. Jones, M.& Yamauchi, M. (2013) “Implementation of Intercultural Telecollaborative Exchanges” Proceedings of the 2nd Moodle Research Conference (MRC2013), 112-114.<http://research.moodle.net/mod/data/view.php?id=1&rid=141&filter=1> (閲覧: 2015.1.18)
12. 山内真理 (2014)「オンライン異文化交流の事例研究」千葉商大紀要 51 (2), 261-274. <http://ci.nii.ac.jp/naid/110009759674> (閲覧: 2015.1.18)
13. Jones, M.& Yamauchi, M. (2014) “Intercultural Exchange via Moodle” Proceedings of Moodle Moot Japan 2014, 54-57.http://moodlejapan.org/home/file.php/1/2014_Moot_files/MoodleMoot2014_Proceedings.pdf (閲覧: 2015.1.18)
14. Skype <http://www.skype.com/ja/what-is-skype/>
15. WeChat <http://www.wechat.com/ja/>
16. Padlet <https://ja.padlet.com/>
17. SurveyMonkey <https://jp.surveymonkey.com/>
18. MNet <https://docs.moodle.org/28/en/MNet> (閲覧: 2015.1.18)
19. 原島秀人・佐藤慎一・神田明延・山内真理 (2011) “Moodle Networking が可能にする学習活動” 第 27 回日本教育工学会全国大会講演論文集, 567-568.

20. 原島秀人・神田明延・山内真理・Rawson, Thom・佐藤慎一 (2014) 「Mnet と Moodle を利用した大学間交流活動」Proceedings of Moodle Moot Japan 2014, 58-62. http://moodlejapan.org/home/file.php/1/2014_Moot_files/MoodleMoot2014_Proceedings.pdf (閲覧：2015.1.18)
21. “Moodle Association of Japan members take New Technology Award in eLearning” (2014) Moodle.net News Room <http://moodle.com/moodle-association-of-japan-takes-new-technology-award-in-elearning/> (閲覧：2015.1.18)
(2015.1.23 受稿, 2015.3.3 受理)

〔抄 録〕

オープンソースの学習管理システム (LMS) として人気の高い Moodle であるが, 2.x へのバージョンアップを経て一層使いやすくなっている。急速に普及したスマートフォンへの対応も向上しており, 学生の私物端末が利用できれば, 普通教室での授業においても学習支援・授業支援のツールとして十分に活用しうる。また, Moodle サイト同士を連携させることにより教室や学校の枠を越えた学びの可能性も広がっている。

Moodle は多機能である分操作が複雑になる部分もあり, 一見手を出しにくいツールではあるが, (サイトやサーバーを管理するのではなく) 教員として担当授業用の Moodle コースを用意するのはそれほど面倒な作業ではなく, 「フォーラム」「課題」など設置の容易な一部のモジュールを利用するだけでも, かなりの学習支援や授業支援 (教員の作業の効率化) になりうる。本稿では, 「フォーラム」「フィードバック」「課題」「小テスト」の4つの「活動」モジュールをとりあげ, 2014 年度後期の活用事例を通して, これらを用いてどのような活動が提供できるのか, どのような点で教員が助かるのか, またどのような点に留意すべきか, 具体的に示していく。